

JSOG Newsletter

Reason for your choice

No.5
JANUARY
2010

わたしたちの医療は「新しい生命」を生み出すためのものです。ひとつでも多くの生命の誕生のために。すべての女性のために。いま、わたしたちができることを...

日本産科婦人科学会
OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

産婦人科の専門領域とその魅力 02

女性がん治療の最前線

婦人科腫瘍 Q&A

Gynecologic Oncology

産婦人科の専門領域は「周産期」、「生殖・内分泌」、「婦人科腫瘍」、「女性のヘルスケア」の4分野に大別されます。このコーナーは「産婦人科の専門領域とその魅力」と題し、各専門分野を紹介しています。第2回の今回は、「婦人科腫瘍」分野に関して医学生・研修医の方から寄せられた質問にお答えします。



QUESTION
産婦人科の専門領域はどのように分かれているのですか？
また、自分の専門領域以外のことを学ぶ機会はないのでしょうか？



ANSWER
産婦人科の専門領域には「周産期」、「生殖・内分泌」、「婦人科腫瘍」、「女性のヘルスケア」があり、それぞれの領域のエキスパートがいます。このように表現は語弊があるかもしれませんが、産婦人科の専門領域は外科が「消化器外科」、「呼吸器外科」、「乳腺・内分泌外科」などの専門領域が臓器別に分かれているのは根本的に違います。

産婦人科の各分野が扱うのはどの領域であっても臓器で言えば子宮・卵巣などの女性生殖器（無論、卵巣機能を調節している視床下部・脳下垂体を含みます）です。

産婦人科では各領域は「臓器別」ではなく女性のライフサイクルの中の「時」と「場合」によって分かれています。ですから、女性の健康を総合的にサポートし、次の世代に命をつなぐ医療を行う産婦人科医は全ての領域に精通する必要があると思います。

例えば、不妊症の患者さんが来院され、諸検査の結果、多発性の子宮筋腫、排卵障害、クラミジア感染症が見つかった場合、子宮筋腫摘出（婦人科腫瘍）、排卵誘発などの不妊治療（生殖・内分泌）、感染症の薬物療法（女性のヘルスケア）、そして妊娠した場合

QUESTION
産婦人科に進むことを考慮は周産期管理が必要となり



ANSWER
産婦人科には外科的側面と側面と内科的側面とがあり、産婦人科腫瘍の領域も例外ではありません。

産婦人科腫瘍の領域で扱う疾患としては「子宮筋腫」、「良性卵巣腫瘍」、「子宮内膜症」、「子宮腺筋症」などの良性疾患と、「子宮頸癌」、「子宮体癌」、「卵巣癌」などの悪性疾患があり、その診断、外科的・内科的治療のほとんどが産婦人科医が主体となり、行われています。外科的治療としては開腹手術、腔式手術に加え、近年では良性疾患を中心により低侵襲な腹腔鏡や子宮

鏡を用いた内視鏡下手術も積極的に用いられています。一方、進行卵巣癌では初回手術後の残存腫瘍径が小さい方が予後が良好であることが知られており、基本術式である子宮全摘術、両側付属器摘出術、大網切除術に加え、傍大動脈・骨盤内の後腹膜リンパ節郭清術や消化管などの合併切除も積極的に用いられています。

内科的治療としては前述した良性疾患に対するGnRHアゴニストや黄体ホルモンなどを併用した内分泌療法、悪性疾患の術後や再発時の癌化学療法などが行われています。

QUESTION
「婦人科腫瘍の臨床は、「外科系？」それとも「内科系？」



ANSWER
産婦人科には外科的側面と側面と内科的側面とがあり、産婦人科腫瘍の領域も例外ではありません。

鏡を用いた内視鏡下手術も積極的に用いられています。一方、進行卵巣癌では初回手術後の残存腫瘍径が小さい方が予後が良好であることが知られており、基本術式である子宮全摘術、両側付属器摘出術、大網切除術に加え、傍大動脈・骨盤内の後腹膜リンパ節郭清術や消化管などの合併切除も積極的に用いられています。

内科的治療としては前述した良性疾患に対するGnRHアゴニストや黄体ホルモンなどを併用した内分泌療法、悪性疾患の術後や再発時の癌化学療法などが行われています。

内科的治療としては前述した良性疾患に対するGnRHアゴニストや黄体ホルモンなどを併用した内分泌療法、悪性疾患の術後や再発時の癌化学療法などが行われています。

QUESTION
「産婦人科腫瘍関連の「専門医・認定医制度」などについて教えてください



ANSWER
産婦人科医は前述したように周産期、生殖医学、婦人科腫瘍、女性のヘルスケア全てに精通している必要があります。産婦人科専門医が認定する「産婦人科専門医」の取得を目指します。詳細は「Reason for your choice No.3」をご参照ください（ホームページ上にPDFが掲載されています）。

「産婦人科腫瘍専門医」は日本産科婦人科学会が認定しています。申請には「産婦人科専門医」であること、指定修練施設での3～5年の修練、婦人科浸潤がん症例（手術、放射線治療、化学療法などを含む）150例以上の経験、婦人科腫瘍に関する研究発表（論文を含む）、教育プログラムへの出席が必要とされています。

手術は浸潤がんの執刀者として30例以上（15例以上は広汎子宮全摘術）、第1助手として30例を含めて100例以上の浸潤がんの手

染が関与していますが、最近、このHPVに対するワクチンが承認されました。12歳の女児全員が接種すれば、頸癌に罹患する人や死亡者を70%以上減らせることも推計されています。



さらに子宮頸癌は検診システムが確立されており、前癌病変を効率よく発見することができ、上皮内癌までに診断・治療すればほぼ100%治癒させることが可能です。

取得するには書類審査を経て、筆記試験と面接試験に合格する必要があります。また、日本臨床細胞学会が「細胞診専門医」、日本産科婦人科内視鏡学会が「技術認定医」、日本がん治療認定医機構が「がん治療認定医」をそれぞれ認定しています。是非、将来トライしてみてください。

産婦人科腫瘍の世界に少しも興味を湧いたなら、身近にいる産婦人科医に是非声をかけてみてください。きっと、その魅力を熱く語ってくれるでしょう。

産婦人科腫瘍の世界に少しも興味を湧いたなら、身近にいる産婦人科医に是非声をかけてみてください。きっと、その魅力を熱く語ってくれるでしょう。

Continued

今回掲載したQ&Aは、一部です。「臨床試験」や「ガイドライン」について...など、全文は右記ホームページ内の「Reason for your choice」コーナーに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

SUMMER SCHOOL³ 産婦人科サマースクール in美ヶ原 2009.8.8-9

前回から学会の正式行事になったサマースクールが、今年も長野県松本市の奥座敷、自然に抱かれすばらしい温泉を有する美ヶ原温泉のホテルにて8月8・9日の日程で開催されました。

みなさん、日本産科婦人科学会のホームページをご覧になったことはありませんか？ まだという方は是非ご覧になってください。トップページに、今回の第3回産婦人科サマースクールに参加された皆さんの集合写真があります。285名の医学生・初期研修医のみならず、お手伝いいただいた先生方全員で撮影したのですが、ここからも会の雰囲気が伝わると思っています。

定員を超える応募

今回は200名の募集に対し、例年同様、全国からそれを超えるたくさんの応募をいただきましたが、なんとご希望者全員(285名)に参加していただくことができました。

婦人科の実際を知って欲しい

参加者の内訳は医学部5・6年生85名、初期研修医200名でした。

講義や実習を担当した先生方や、参加者のお世話をした先輩方の、産婦人科の実際を伝えたい、という熱意が感じられ、有名な教授にもる肌を脱いで超音波実習の実験台になっていただくというひと幕もありました。

定員を超える応募



幸せな1泊2日の扉

6年生になって進路に迷う時期に私は自分の大学の掲示板でこのサマースクールのポスターに出会いました。それはこの幸せな1泊2日の扉でありました。

大学毎に教授のカラーによって同じ診療科でも、いろんな違いがあるためにこのような場所は大変貴重な場所だと思えます。特に産婦人科は、産科領域、婦人科領域、生殖領域などそれぞれまたいくつもの科に分かれていてもおもしろくないくらい幅広い診療科だと思います。実際、自分の大学では生殖領域の診療はあまり行っていない印象でして、このサマースクールで出会った先生の話や聞いてとても興味を持った領域でした。また、その道のプロフェッショナルの方々と直接話ができるということは、大変貴重な経験になりました。たとえ、産婦人科の道に進まなくても、この場に参加して一流の先生方の熱のこもったお話が聴けることがのちの人生に生きてくると思っています。その道で世界的な権威の先生や特殊なキャリアを持つておられる先生とも話してお話することができたのは大学生活で一番刺激的だったともいえると思います。

また、いろんな先生と交流ができたことと同じくらい、自分と同じような境遇の学生が全国から集まって交流できることは魅力的であると思えました。同年代だからこそ話せる話もたくさんあり、夜遅くまで話していたのを思い出します。

【筑波大学 医学6年 H.N. ミクター K】

参加者の声

Welcome to 日産婦学術講演会2010 in 東京国際フォーラム

プログラム速報

第62回日本産科婦人科学会学術講演会が、平成22年4月23日(金)～25日(日)の3日間、東京国際フォーラムにて開催されます。全国から登録いただいた演題は1300題を超え、現在選考課程に入っています。ここで一部プログラムを紹介します。

1日目

開会直後から教育講演、シンポジウム、クリニカルカンファレンスを予定しています。教育講演、クリニカルカンファレンスは、皆さんにも役に立つ up-to-dateな情報が満載です。

また、今回から学術活性化委員会のプログラムが金・土の2日間にわたり開催されます。研究に興味を持てるようになるセミナーの企画です。

午後は、日独シンポジウム、夜には総懇親会を予定。アトラクションとして女性11名で構成されたジャズバンドの「歌って踊る生演奏」を企画。参加無料です。

2日目

午前中に教育講演、シンポジウム、クリニカルカンファレンス、午後は特別講演、会長講演、招請講演を予定。招請講演は、HIV研究で世界の第一線で活躍中の熊本大学、満屋裕明教授をお招きし、最新のHIVについて分かりやすくご講演していただきます。

3日目

午前中に教育講演、シンポジウム、生涯研修プログラムを予定、並行して卒後10年目前後の若手医師が中心となって企画したプログラムも用意しています。生涯研修プログラムでは医療事故防止に関するテーマを取り上げ、医療の現場の様々な問題を解説します。3日間にわたり、一般演題のポスター発表や、昼食をとりながらのランチセミナーもあります。

「チーム・パチスタの栄光」の著者である海堂 尊先生(会長の後輩・教え子)によるスポンサードレクチャーも予定しています。

以上のように多彩なプログラムを用意しております、是非ご参加ください。

(担当団体：獨協医科大学)

学術講演会参加費優待

※学生書、証明書をご提示ください。

- ★ 医学生 無料
- ★ 初期研修医(非会員) 3,000円
- ★ 初期研修医(会員) 無料

一番の盛り上がり

これらも大事なプログラムではありませんが、温泉に入り日頃の疲れを癒しつつ夕食を共にする「懇親会」、メインイベントといってもよい夕食後の「飲み会」は、全国から同じ悩み・志を持った同年代の仲間が集まる、またとないチャンスであり、情報交換の場でもありました。

刺激に満ち溢れた2日間

「将来は産婦人科に」と考えている私は、期待を胸に参加させていただきました。短い時間ではありましたが想像以上に内容は濃く、私にとって忘れられない2日間となりました。

六年生の時に産婦人科に魅せられて以来、まっすぐにその道を進んで来たものの、研修が始まり、予想以上に充実していた反面、「目指す道の一つに決めてしまっているのか」、「そもそも自分は向いているのか」など、不安を感じていました。また、「母が産婦人科医、だから自分も産婦人科を選んだのか？」と自分自身の中で納得しがたい思いを抱いていました。しかし、それらの不安や思いは見事に吹き飛ばされてしまいました。

多くの魅力あるプログラムや、丁寧な御指導もさることながら、先生方の産婦人科に対する熱意を強く感じる事が出来たからです。

若手の先生からベテランの先生まで、産婦人科という学問や、その未来に対して、非常に熱心であることを随所で感じました。そして、おそらく激務であるにもかかわらず、産婦人科について語る先生方の姿は非常に輝いていました。「こんな先生になりたい!」、そう思える先生が何人もいらっしゃいました。

この2日間は、産婦人科の魅力を感じる存分、感じさせてくれ、足踏みをしていた私の背中を力強く押し付けてくれました。先生方からいただいた多くの刺激は、私のかけがえのない宝物になることでしょう。素晴らしい企画に参加させていただき、本当に有難うございました。

【杏林大学医学部付属病院 研修医 堂園 深】

参加者の声